

60年代以降の日本の対中貿易品目の変遷 (その3～機械機器類)

中村 江里子 Eriko Nakamura

(財)国際貿易投資研究所 客員研究員

前回(季刊第65、66号)まで日本の主要な対中貿易品目について1960年代から2000年代の約40年間にわたる変遷を見てきた。今回はその中でも近年、輸出入とも主役となっている機械機器類について取り上げたい。

＜輸出は60年代の産業用機器類から2000年代は電気機器・同部 品へ＞

まず対中輸出における機械機器類の状況(SITC第7類。SITCについては(注1)を参照)について振り返ると、機械機器類は80年代よりじわじわと台頭し、90年代、2000年代は輸出額の5割強のシェアを占めている。小分類(SITC3桁ベース。約230品目)でみた輸出上位10品目においては、70年に「貨物自動車・特殊目的自動車」(5位)、「金属加工機

械・同部品」(7位)が登場したのを皮切りに徐々に品目を増やし、90年代以降はテレビやレコーダーなどの家電製品が、そして2000年代にかけては事務用機械・コンピュータ部品、自動車部品などの部品関連品目が台頭していた。

日本の総輸出における機械機器類のシェアは、70年代に5割を超え、80年代以降は約7割であるので、対世界輸出に比べれば対中輸出における機械機器類のシェアはやや低いということになる。しかし機械機器類の輸出相手国としては、統計がとられるようになった62年の64位(機

械機器輸出総額に占める中国のシェア:0.1%)から90年17位(同1.3%)、2000年5位(同4.7%)、2003年には2位(同10.2%)と急速に順位を上げている。62年以降、3割前後のシェアを常にキープして首位を独走する米国にはまだ及ばないものの、中国は他国の追従を許さない勢いで追いついている。

それではこの勢いを牽引する品目は何なのであろうか。対中国機械機器輸出における上位10品目をみると、先に見た機械機器類の主要輸出品目の変遷がさらに鮮明に見えてくる(図表1)。62年における上位品目には、「特殊産業用加工機械」や「土木、建設用機械・同部品」、「織物、皮革加工機械・同部品」などの産業用機器類(第72類)が並ぶが、どの品目も輸出額はまだ小さい。70年になると産業用機器類は順位を下げ、代わって「非電気式機械の部品他」、「その他のポンプ、遠心力ポンプ他」、「荷役機械・同部品」、「その他の非電気機械、工具・同部品」など一般工業機器類(第74類)(注2)が目立ち、一部の品目では輸出総額のうち1割以上が中国向けで占めら

れものも出始めた。80年には「加熱用、冷却用機械・同部品」や「水蒸気ボイラー、補助装置他」など輸出総額の2割近くが中国向けという品目も出現、また後の主要輸出品目となる「テレビ(ラジオ、録音機兼用含む)」も上位に入っている。90年には「蓄音機、録音機他」、「テレビ(ラジオ、録音機兼用含む)」、「通信機器・同部品、付属物」と通信・音響機器(第76類)が機械機器類輸出を牽引した。特に「テレビ(ラジオ、録音機兼用含む)」では90年代前半に中国が輸出シェアの2割を占め、91年から93年までは最大輸出相手国であった。

しかし90年代半ばを境に機械機器類輸出の主役は電気機器・同部品(第77類)に移っていく。2000年、2003年の首位は「真空管、トランジスタ他」であり、特に2003年の同品目の輸出規模は2位以下を大きく引き離す。その他「電気回路の開閉装置、接続装置他」、「その他の電気機器」などが上位にあがり、電気機器・同部品は近年の中国向けの機械機器輸出の急増に一役買っている。

このように対中国機械機器輸出の

中心は60年代から2000年代にかけて産業用機器類から一般工業用機器類、通信・音響機器類、そして電気機器・同部品へと変化したが、実はこれは日本全体の機械機器輸出構造の変化にそのまま合致するものではない。最大の相違点は日本の主要輸出品目である乗用車が2000年代まで上位10品目に登場しないこと、そしてそのために自動車やオートバイなどの道路走行車両類（第78類）のシェアが相対的に低いことである。

では機械機器類の主要輸出品目は対世界と対中国ではどれ程の違いがあるのだろうか。それぞれの上位10品目でみると、62年時点では「船舶他」や「貨物用自動車、特殊目的自動車」など5品目が重なっているが、70年には「貨物用自動車、特殊目的自動車」のみのわずか1品目となった。70年時点での日本の機械機器の輸出上位品目にはトップの「船舶等」に続いて2位に「乗用車（公共サービス用除く）」が登場しており、この頃の中国向け機械機器輸出の傾向は世界向けとは乖離していたことになる。その後は少しずつ同じ品目が上位に並び、90年には4品目が、

2000年には対世界輸出の上位10品目のうち2位から6位までを含む計7品目が重なり、2003年は対中輸出の上位に乗用車が入ったことから8品目が合致した。

＜突出する事務用機器・自動データ処理機械類の輸入＞

一方、対中輸入における機械機器類は、80年代までは総輸入額に占めるシェアも1%にも満たずごく小さな規模であったものが、90年代に1割を超え、2000年代は3割近くまで急伸した。小分類では2000年に「事務用機械、コンピュータの付属品・部品」が初めて輸入額上位1位に現れ、2003年には3品目がトップ10に入っている（図表2）。もともと日本は資源・原材料輸入国で加工貿易を得意としていたため、総輸入額に占める機械機器類のシェアは80年代まで1割弱の低水準で推移していた。従って対中輸入においても機械機器類のシェアがそれほど大きくないことは不思議ではない。その後、日本の総輸入における機械機器類のシェアは90年代に2割、2000年代

には3割弱と近年は増加の流れにあり、これには中国からの機械機器輸入額の急伸も一役買っている。90年

代から2000年代にかけて、日本の総輸入額の増加に対する寄与率を品別にみると、機械機器類が50%を超

図表1 日本の対中国機械機器類輸出 輸出額上位10品目
(1962年~2003年) SITC 3桁ベース

(単位:1,000ドル、%)

1962年				1970年			
	輸出額	対世界輸出に占めるシェア		輸出額	対世界輸出に占めるシェア		
対中輸出総額		38,464	0.8	対中輸出総額		568,875	2.9
うち機械機器類		1,386	0.1	うち機械機器類		112,731	1.4
1	728 特殊産業用加工機械・同部品	365	1.2	782 貨物用自動車、特殊目的自動車	25,501	6.7	
2	778 その他の電気機器	236	0.4	736 金属加工機械・同部品	17,693	16.9	
3	749 非電気式機械の部品他	233	0.8	749 非電気式機械の部品他	15,323	6.4	
4	782 貨物用自動車、特殊目的自動車	103	0.1	743 その他のポンプ、遠心力ポンプ他	13,549	19.6	
5	764 通信機器・同部品、付属物	93	0.2	791 鉄道用車両(ホーバートレイン含む)	8,156	14.8	
6	793 船舶他	73	0.0	723 土木、建設用機械・同部品	7,835	6.0	
7	776 真空管、トランジスタ他	68	0.3	744 荷役機械・同部品	3,627	3.0	
8	723 土木、建設用機械・同部品	48	0.3	745 その他の非電気機械、工具・同部品	3,497	7.7	
9	724 織物、皮革加工機械・同部品	39	0.0	784 自動車の部品、付属品	3,278	2.2	
10	763 番音機、録音機他	31	0.1	713 内燃機関・同部品	2,670	1.9	

1980年				1990年			
	輸出額	対世界輸出に占めるシェア		輸出額	対世界輸出に占めるシェア		
対中輸出総額		5,078,302	3.9	対中輸出総額		6,115,327	2.1
うち機械機器類		2,037,723	2.7	うち機械機器類		2,675,488	1.3
1	741 加熱用、冷却用機械・同部品	303,751	18.0	763 番音機、録音機他	300,206	3.3	
2	793 船舶他	268,702	5.7	761 テレビ(ラジオ、録音機兼用含む)	237,085	11.5	
3	744 荷役機械・同部品	160,254	12.2	776 真空管、トランジスタ他	201,855	1.5	
4	728 特殊産業用加工機械・同部品	136,349	11.6	764 通信機器・同部品、付属物	190,525	1.2	
5	724 織物、皮革加工機械・同部品	131,123	9.8	728 特殊産業用加工機械・同部品	165,102	3.6	
6	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	122,765	7.5	724 織物、皮革加工機械・同部品	163,724	4.0	
7	741 テレビ(ラジオ、録音機兼用含む)	116,132	6.7	749 非電気式機械の部品他	112,140	2.2	
8	743 その他のポンプ、遠心力ポンプ他	113,266	14.5	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	96,387	1.8	
9	782 貨物用自動車、特殊目的自動車	81,374	1.3	741 加熱用、冷却用機械・同部品	93,227	3.1	
10	711 水蒸気ボイラー、補助装置他	67,989	19.3	782 貨物用自動車、特殊目的自動車	89,094	1.0	

2000年				2003年			
	輸出額	対世界輸出に占めるシェア		輸出額	対世界輸出に占めるシェア		
対中輸出総額		30,378,789	6.3	対中輸出総額		56,235,706	12.2
うち機械機器類		15,346,080	4.7	うち機械機器類		31,499,972	10.2
1	776 真空管、トランジスタ他	2,412,731	5.7	776 真空管、トランジスタ他	6,055,644	17.5	
2	764 通信機器・同部品、付属物	1,516,040	9.4	764 通信機器・同部品、付属物	3,109,002	21.9	
3	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	1,328,254	10.0	728 特殊産業用加工機械・同部品	2,552,760	20.4	
4	728 特殊産業用加工機械・同部品	1,320,899	8.6	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	2,109,063	18.5	
5	778 その他の電気機器	1,204,528	6.0	778 その他の電気機器	1,990,737	13.3	
6	759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品	1,079,487	6.4	759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品	1,870,933	12.6	
7	749 非電気式機械の部品他	684,648	6.9	784 自動車の部品、付属品	1,754,264	8.9	
8	784 自動車の部品、付属品	538,144	3.1	781 乗用自動車(公共サービス用除く)	1,427,354	2.1	
9	724 織物、皮革加工機械・同部品	498,602	15.9	724 織物、皮革加工機械・同部品	1,208,396	37.9	
10	736 金属加工機械・同部品	490,539	6.2	749 非電気式機械の部品他	1,085,398	11.5	

(注) 対世界輸出に占めるシェアとは、当該品目の日本の対世界輸出額に占める中国向け輸出額のシェア

(資料) International Trade by Commodities Statistics, CD-ROM (OECD)

えるが、中国1カ国からの機械機器のみならず輸入全体を牽引している輸入額の寄与率でも20%弱を占める様子が見て取れる。記録しており、日本の機械機器輸入

図表2 日本の対中国機械機器類輸入 輸入額上位10品目
(1962年～2003年) SITC3桁ベース

(単位:1,000ドル、%)

1970年				
		輸入額	対世界輸入に占めるシェア	
対中輸入総額		253,808	1.3	
うち機械機器類		551	0.0	
1	778 その他の電気機器	545	0.7	
2	736 金属加工機械・同部品	4	0.0	
3	724 織物、皮革加工機械・同部品	1	0.0	
4	785 オートバイ、スクーター等	1	0.2	
5	-	-	-	
6	-	-	-	
7	-	-	-	
8	-	-	-	
9	-	-	-	
10	-	-	-	

1980年			1990年			
		輸入額	対世界輸入に占めるシェア			
対中輸入総額		4,323,359	3.1	対中輸入総額		
うち機械機器類		4,290	0.1	うち機械機器類		
1	762 無線放送受信機	1,284	1.7	716 回転する電気装置・部品	82,652	16.1
2	764 通信機器・同部品、付属物	808	0.3	771 電力機械・同部品	74,754	13.1
3	778 その他の電気機器	663	0.2	764 通信機器・同部品、付属物	60,893	3.1
4	793 船舶他	476	0.1	762 無線放送受信機	41,926	14.1
5	716 回転する電気装置・部品	289	0.2	763 蓄音機、録音機他	30,619	17.7
6	728 特殊産業用加工機械・同部品	212	0.1	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	22,552	2.2
7	736 金属加工機械・同部品	194	0.1	773 分電機器	20,148	5.4
8	785 オートバイ、スクーター等	108	0.2	751 事務用機械	18,362	8.7
9	775 家庭用機器	49	0.1	778 その他の電気機器	16,967	1.2
10	771 電力機械・同部品	39	0.0	775 家庭用機器	16,337	3.6

2000年			2003年			
		輸入額	対世界輸入に占めるシェア			
対中輸入総額		55,100,749	14.5	対中輸入総額		
うち機械機器類		12,976,908	12.2	うち機械機器類		
1	759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品	1,596,260	16.7	752 自動式データ処理機械	6,494,859	45.3
2	764 通信機器・同部品、付属物	1,455,984	16.4	764 通信機器・同部品、付属物	3,008,289	40.4
3	771 電力機械・同部品	1,142,881	47.2	759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品	2,264,400	30.8
4	752 自動式データ処理機械	1,121,725	6.4	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	1,411,719	50.2
5	772 電気回路の開閉装置、接続装置他	953,977	31.5	775 家庭用機器	1,280,677	60.4
6	773 分電機器	843,840	40.0	771 電力機械・同部品	1,233,106	60.2
7	778 その他の電気機器	682,997	13.6	773 分電機器	1,157,910	50.9
8	716 回転する電気装置・部品	651,382	44.4	778 その他の電気機器	1,118,785	29.9
9	776 真空管、トランジスタ他	588,219	3.0	763 蓄音機、録音機他	1,077,445	56.7
10	775 家庭用機器	587,563	36.1	776 真空管、トランジスタ他	815,824	5.3

(注) 対世界輸入に占めるシェアとは、当該品目の日本の対世界輸入額に占める中国からの輸入額のシェア

(資料) 図表1に同じ。

しかし機械機器輸入における中国の躍進ぶりは、この40年間の流れの中ではごく最近の出来事である。今回の分析に利用したOECD統計では、中国からの機械機器輸入が初めて計上されたのは64年であり、また機械機器輸入が小分類で10品目を超えるのは72年と中国は日本の機械機器の主要な輸入相手国となってから日は浅い。64年時点では日本の機械機器輸入相手国としては31位(注3)、機械機器輸入総額に占める中国のシェアはわずか0.01%に過ぎず、その後、中国は順位を上げて92年に10位となったものの、同シェアはこの時でも2.6%とまだ小さかった。97年にはシェア9.3%で2位に上昇、1位の米国(同シェア36.5%)との間には開きが大きかったものの、2002年にはシェアを20.2%にまで伸ばして米国(同24.1%)に猛追、ついに2003年には米国を抜いて1位に躍り出た。

対中国機械機器輸入の詳細について、輸出と同じ年次で小分類でみると、先にみたとおり62年時点では機械機器輸入そのものの記録がなく、70年時点でも4品目のデータし

かない。その70年の機械機器輸入はほぼ「その他の電気機器」(より詳細な分類としては電球)で占められた。80年には「無線放送受信機」、「通信機器・同部品、付属物」と通信・音響機器(第76類)が上位にあがる。「無線放送受信機」は携帯ラジオ、「通信機器・同部品、付属物」はテレビ・ラジオ部品が主であり、この頃の中国からの機械機器輸入は携帯ラジオ、電球、テレビ・ラジオの部品と、機械機器としてはそれほど高い技術を伴わない安価な製品類が主流であった。90年には「回転する電気装置・部品」が1位に登場、2位以下には「電力機械・同部品」、「分電機器」、「電気機器」、「家庭用電気機器」と電気機器・同部品(第77類)が並び、80年同様に「通信機器・同部品、付属物」、「無線放送受信機」、「蓄音機、録音機他」の通信・音響機器(第76類)も上位となった。

2000年、2003年はそれぞれ1位に「事務用機械、コンピュータの付属品と部品」、「自働式データ処理機械」がなった。この事務用機器・自動データ処理機械類(第75類)はトップ10内の品目数こそ電気機器・同部品

より少ないものの、機械機器類においては3割超（2003年）と中分類では最大シェアを占めている。また、90年からは輸出と同様に品目ごとの輸入総額のうち1割以上が中国からというものも登場、90年は5品目、2003年には9品目まで増え、過半以上が中国からという品目も5品目を数えるなど、機械機器輸入の急増ぶりを多方面から読み取ることができる。

このように中国からの機械機器の輸入の流れは、通信・音響機器に電気機器・同部品が加わり、やがて事務用機器・自動データ処理機械類に中心が移動、ということになる。輸出と同様に世界からの機械機器輸入の傾向と比較すると、航空機を含むその他輸送機器（第79類）、乗用車を含む道路走行車両類（第78類）のシェアが世界に比べて著しく低いということが観察される。また90年代以降、世界全体では電気機器・同部品が中心で事務用機器・コンピュータ類がそれに迫る勢いでシェアを伸ばしているという状況であるのに対し、中国は同様の傾向を辿りながらも2003年には事務用機器・自動

データ処理機械類が電気機器・同部品のシェアを超え、世界全体の傾向より一足先に進んでいる。

＜輸入はより高技術の商品へ＞

前回、輸入の状況を見た際（季刊第66号）に「事務用機械、コンピュータの付属品、部品」が2003年には輸出入とも上位にあると指摘したが、機械機器のみで輸出入を比較すると90年以降、多くの品目で重なりが見られる。90年は「通信機器・同部品、付属物」（輸入3位、輸出4位）、「蓄音機、録音機他」（輸入5位、輸出1位）、「電気回路の開閉装置、接続装置他」（輸入6位、輸出8位）があげられるが、それぞれ詳細に品目を見ていくと、輸入ではテレビ・ラジオ部品、携帯音楽プレーヤー、スイッチが主要品目になるのに対し、輸出は送電線、ビデオ再生機、抵抗器となる（図表3）。敢えて言えば、小分類では同じ品目に分類されてもより高度な技術が必要とする商品が輸出され、比較的、技術が必要とされない商品が輸入されているとみることができる。

しかしこの構図も 2003 年は明確には見えてこない。図表 3 に見られるとおり、90 年には輸出、輸入である程度はつきりとした商品の違いが見られたが、2003 年は輸出、輸入とも詳細な分類をみても同じような商品となるからである。

こうした現象を生み出す要因の一つに商品分類の限界があげられよう。75年に発表された SITC の Revision.2 では 2000 年代の急激な IT の進歩に対応できず、従って例えば 2003 年の上位品目「真空管、トランジスタ他」において輸出入とも主な商品となっている集積回路も、輸出されるもの

と輸入されるものに大きな性能の違いがあったとしても、分類上は対応できないということになるからである。

だがこの商品分類の限界を勘案しても、2003 年の機械機器貿易の上位品目が輸出入とも似通ってきたということは事実である。また 90 年と比較しても、例えば「電気回路の開閉装置、接続装置他」に見られる通り、90 年のスイッチのみから 2003 年にはプリント基板も主要商品にあがるなど、より高技術な商品が輸入されている。技術進歩により全体の技術度が底上げされたために輸入商品も

図表 3 日本の対中国機械機器貿易 輸出、輸入共通上位品目(小分類) およびその詳細 (90 年、2003 年)

<90 年>

小分類	輸入順位	主な詳細品目	輸出順位	主な詳細品目
764 通信機器・同部品、付属物	3位	テレビ・ラジオ部品	4位	送電線
763 蓄音機、録音機他	5位	携帯音楽プレーヤー	1位	ビデオ再生機
772 電気回路の開閉装置、接続装置他	6位	スイッチ	8位	抵抗器

<2003 年>

小分類	輸入順位	主な詳細品目	輸出順位	主な詳細品目
764 通信機器・同部品、付属物	2位	通信機器部品	2位	通信機器部品
759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品	3位	計算機、コンピュータ部品	6位	計算機、コンピュータ部品
772 電気回路の開閉装置、接続装置他	4位	スイッチ、プリント基板	4位	スイッチ、プリント基板
778 その他の電気機器	8位	電気機器部品(コンデンサー除く)	5位	コンデンサー
776 真空管、トランジスタ他	10位	集積回路(IC)	1位	集積回路(IC)

(注) SITC3桁の小分類の品目をそれぞれ5桁(一部は4桁)までブレイクダウンして主要品目をピックアップした。

(資料) 図表1に同じ。

以前より高技術化されたということもあろう。その技術の得るために中国に進出した外資系企業が果たした役割はどれほどなのか。事務用機器・自動データ処理機械の短期間での躍進振りから考えれば、外資系企業の貿易商品に対する技術貢献度の高さは想像に難くない。

(注1) 国連による商品分類、「標準国際商品分類」(Standard International Trade Classification)。今回利用している分類は75年に発表された改訂第2版(Rev.2)で、小分類(3桁ベース)の品目類は約230品目。前回までの説明において、SITC商品分類の最新版は85年に発表された改訂第3版(Rev.3)と記述したが、正しくは2006年に発表された改訂第4版(Rev.4)が最新版である。なお現時点(2007年8月)ではまだ国連、OECDから改訂第4版による商品別貿易データは発表されていない。

(注2) 機械機器類(第7類)の中分類

(SITC2桁ベース)は以下の通り。「原動機」(第71類)、「産業用機器類」(第72類)、「金属加工機械」(第73類)、「その他の一般工業用機器類」(第74類)、「事務用機器、自動データ処理機械」(第75類)、「通信・音響機器類」(第76類)、「電気機器・同部品」(第77類)、「道路走行車両類」(第78類)、「その他輸送機器」(第79類)。

なお小分類744(Mechanical handling equipment and parts)は輸出編(季刊第65号掲載)では「国際連合貿易統計年鑑」(原書房)に従い「メカニカルな運転機器」としたが、本稿ではより品目をわかりやすくとらえるため、「荷役機械・同部品」に名称を変更した。

(注3) 輸入の順位は輸出(62年、中国64位)より上位にあるが、64年に機械機器の輸入が計上された国は45カ国に過ぎない。トップは米国(シェア50%)、次いでドイツ(同16%)、英国(同10%)。ちなみに輸出は130カ国。